

# 令和5年度シラバス

言語聴覚士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
嚥下障害		講義	今井 絵美子	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 ( 1 単位)		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
<p>生命維持に不可欠な摂食嚥下の障害は患者の生命を脅かすだけでなく、生活の質を著しく低下する。言語聴覚士は摂食嚥下能力の向上と、「食事」に関する活動・参加の促進の援助に携わる。授業では、摂食嚥下に関わる解剖学、生理学の知識の復習による摂食嚥下メカニズムの理解を基盤に、摂食嚥下療法で行う検査、尺度、具体的訓練手技について学び、症例の問題点整理と訓練プログラム立案ができるようになることを目的とする。</p>				
授業の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・摂食嚥下メカニズムをイメージして説明できるようになる。</li> <li>・各検査を理解して評価できるようになる。</li> <li>・訓練手技の目的、適応、方法を理解して、適切に選択できるようになる。</li> <li>・症例の具体的な訓練立案ができるようになる。</li> </ul>				
授業計画				
回	内容			
1	摂食嚥下リハビリテーション概説			
2	摂食嚥下障害の原因と分類			
3	検査(1) スクリーニングテスト			
4	検査(2) VF			
5	検査(3) VE			
6	訓練手技(1) 基礎的訓練			
7	訓練手技(2) 摂食訓練			
8	訓練手技(3) 訓練手技のまとめ			
9	治療方針の立て方(1) 食事形態・リスク管理			
10	治療方針の立て方(2) 目標設定・訓練立案			
11	治療の実際(1) カニューレ管理、外科的手術			
12	治療の実際(2) 訓練立案演習			
13	症例検討(1) 評価			
14	症例検討(2) 訓練立案 *レポート			
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	90%	摂食嚥下のメカニズムを理解し、適切な検査・訓練を選択できる点を評価基準とする。		
レポート・課題	10%	症例の評価シートの作成、授業時に行う症例検討への取り組みをもとに評価する。		
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
標準言語聴覚障害学 摂食嚥下障害学 第2版	藤田郁代監修, 椎名英貴編集		医学書院	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				